

# 十二月例会御案内 (平成二十三年)

## 時代を刷新する会

### ○ 御案内

十二月十二日(月)正午～二時半 参議院議員会館 地下一階・B一〇四会議室(第三〇六回)  
講題 福島第一原発事故により、福島県下で、医療・福祉・介護が崩壊している実情！  
解説 坪井永保先生(医学博士、福島県郡山市・坪井病院理事長)

井坂 晶先生(原発事故で立入り禁止の双葉郡・医師会会長、現在、坪井病院勤務)  
先月の宮城・岩手を中心とする大震災・大津波災害報告も深刻でしたが、徐々に復旧・復興しつつあります。しかしながら、その南の福島県では大震災・大津波に加えて、福島第一原発の水素爆発事故が発生し、政府は当初、それほどの放射能被害はないと発表しておりましたが、その後の調査で、原発が水素爆発を起こした時に、原発から二〇キロ圏・三〇キロ圏内のみならず、飛散した半減期の長いセシウム一三七などが、山の谷間を通過してさらに北西に広がって行き、最近では、それが福島市や本宮を経て郡山市から、栃木県を通過して長野県境までも行っていることが発表され、そのため、放射能値が高い地域では家屋・土壌の除染作業が始まっており、加えて風評被害も広まって、福島県の農作物や畜産品は敬遠され、お気の毒です。そして、いま、福島県では医師・看護師も逃げ出しているなどの話もありますので、今回は頭記のテーマにて、福島県から、実情に詳しい坪井永保先生と井坂晶先生にお越しいただき、その実情をお話しいただくことにしました。明日はわが身かも、奮っての御参加を！  
(清原記)

○ 当日の会費 四千円(昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきました)

### □ 御報告

去る十一月九日の月例会は、医学博士・東北大学大学院経済学教授の関田康慶先生に『東北大震災における医療・福祉・介護の実態と、今後の対策への提言！』と題し、御講話をいただきました。この日、関田先生は、石巻赤十字病院が製作した大震災・大津波の動画を交

え、関田先生作成の各種資料をパワーポイントを駆使して、御解説下さいました。その要旨は大震災・大津波とともに、停電したので交通信号が消え、インターネットも使えず、電波中継所が流されたので携帯電話も通じず、家屋倒壊や津波瓦礫で道路通行もままならず、数日は、夜も真っ暗で、負傷者の所在ははじめ被災状況が全く分からず、情報も歩いて得られる範囲で、江戸時代に逆戻りしたような状況であった。数日後、自衛隊や米軍が来て、なんとか大震災・大津波を免れた病院・診療所が受入れたが、それもすぐ満員になり、寒さの中、灯油やガソリンも無くなり、投与すべき薬剤も底をついた。透析はじめ慢性患者の治療には特に困った。こうした体験から、今後は、医師・看護師・介護士・鍼灸士・ヘルパーなどの地域の連携が必要なことを痛感したが、特に、こうした広域災害に対し、政府の対応が余りに遅かったため、今回の大災害を機に、国は検証し、抜本的対処方法を組み立ててほしい、と訴えられました。

▽ 当「時代を刷新する会」は、「何事も人類・国民のためになることには、時代を先取りして積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって設立されたシンクタンクです。晩年の岸元総理がそうであったように超党派・超派閥で、真に国を憂える有志により構成されています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長。第三代が櫻内義雄元衆議院議長。第四代・塩川正十郎元財務大臣は、一昨年七月、九十歳を機に辞任。現在は、江口一雄元衆議院議員が会長代行に就任している。理事長は、平成十四年から半田晴久が就任しております。毎月の月例会のほか、内部に、教育部会、医療福祉部会など八つの部会と、環境技術委員会、新エネルギー委員会などの委員会があり、これまでに、政府へ一三四本に及ぶ要請書・意見書を提出するなど、活発な活動を展開しております。

事務局電話(03) 3272-4320 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

○ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、当事務局まで、御返信をいただきました。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

十二月十二日(月) 出・欠(いずれか〇) 参議院議員会館 地下一階・B一〇四会議室